

令和元年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等
【北海道地区】

研究大会開催日：令和元年9月13日（金）14日（土） 苫小牧市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を
目指す小学校教育の推進

研究副主題 ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて
挑戦する子どもを育てる学校経営の推進

成
果

- 全道各地より 580名の参加を得て、「北海道の地域性を活かした新たな可能性の開発と経営ビジョンの構築」「機能性のある組織づくり」の観点から、新たな知を拓き人間性豊かな社会を築いていく子どもを育てる学校経営の推進について究明すべく、熱心な討議が行われた。
- 分科会を「学校づくりのビジョンを語り合う場」「交流の成果を持ち帰ることのできる場」として位置付け、参画型の分科会運営がなされた。アナライズカードによる複数回の意思表示や参会者持参資料・グループ編制や名札の工夫、実物投影機を使った視覚化の工夫等により、参会者一人一人に参画意識の高まりが見られた。

課
題

- 「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議内容の視覚化によって参会者の参画意識を高める工夫も見られた。今後は、提言への質疑、提言とグループ討議を関連付ける具体的な手立て、討議の柱を話しやすいものにするなどの工夫をしていきたい。
- 分科会の討議を通して明らかになったことや課題となる点などを整理し、次年度の第63回オホーツク・北見大会へそれらを引き継ぎながら、新たな大会主題・副主題のもとで深めていくようにしていきたい。

運
営
上
の
工
夫

- 分科会の充実のために、事前に3回の分科会運営者研修会を開催して発表内容や討議の柱等について検討するとともに、電子メール等によって、分科会運営者・研究発表者が要項原稿や当日の進行について共通理解を図った。
- 運営責任者、司会者2名、記録者2名それぞれの業務分担について事前の準備、当日と事後の役割分担を明確に示しておいたことで、業務を円滑に推進することができた。
- 分科会の全体討議においては、グループごとにキーワードを出し合い、それらをボードに並べて比較・吟味・検討する分科会が多く見られた。更に、各グループのまとめをフリップに記し、掲示したことで話し合いの見える化と共有化、さらに深化にもつながった。
- 北海道小学校長会のホームページに各分科会の研究課題、研究発表の概要、当日持参する資料などについて掲載することによって、事前に必要な情報を提供するとともに参会者の課題意識や参加意欲を高めた。持参資料については、グループ討議に位置付けて活用を図った。

令和元年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【関東甲信越地区】

研究大会開催日：令和元年6月13日（木）14日（金） 千葉市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を
目指す小学校教育の推進

研究副主題 豊かな発想力や創造性を身に付け 多様な人々と協議しながら
未来を拓く子どもを育む学校経営

成
果

- オール千葉県で取り組むことにより、組織の活性化につながった。
- テーマに沿った実践発表、グループ討議が有益であり、「他県や他校の実践から多くのことを学んだ。」という声が多かった。

課
題

- 開会式のスリム化が必要。特に挨拶が多い。という声が多かった。
- 大会宣言の有無

運
営
上
の
工
夫

- 本大会より、各都県の活動等を全体会の中で発表する「都県だより」を廃止し、第1日目の運営に時間のゆとりをもたせた。
- 分散会の運営を昨年の長野大会及び千葉県小学校長研究協議会の成果と反省から以下について工夫した。
 - ・提案者に参加者が感想等を付箋に記して、還元した。
 - ・5～7人のグループ編成にすることにより、有益な意見交換ができるようにした。
 - ・司会者・記録者・提案者もグループに入り、意見交換ができるようにした。
 - ・最後に提案者が感想を述べる場面を設定した。

そ
の
他

- 梅雨の時期であったが、天候に恵まれ計画通り実施できた。
- 関ブロ理事会での協議が充実していて、多くのご示唆をいただいた。

令和元年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等
【 九州地区 】

研究大会開催日：令和元年8月22日（木）23日（金） 宮崎市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 心豊かでたくましく生き抜く子どもを育て、夢と希望が輝く学校経営を推進する校長の理念と指導性

成果

- 現研究主題としての最終年度、また令和の幕開けを意識して、宮崎県小学校長会の総力を挙げて取り組むことができた。
- 分科会は、グループ協議が定着しており、他県の校長との意見交換は有意義な時間となった。
- 分科会では、二つの研究発表をもとに、それぞれの地域・学校での取組等についての協議・情報交換等ができ、大会の趣旨に沿った充実した内容となった。
- 記念講演とアトラクションの内容は、研究主題の「人間性豊かな社会を築く日本人の育成」に関連するものでよかった。また、参加型であり、会場が一体となり参加者の興味を高めるものになった。さらに宮崎の情報発信にもなった。

課題

- 分科会での提案内容は、校長の指導の必要性や指導の状況と成果・課題など、校長のリーダーシップに重点を置いた内容にするとよいのではないか。
- 分科会で使用するパソコンは、最新版のアプリケーションソフトがインストールしてあるものを準備する必要がある。
- 九小協宮崎大会のコーナーをホームページに特設で解説し、活用できるようにするとよかった。
- 参加者数については、各県の会員数の減少と夏季休業期間の短縮に伴って、見直す時期に来ているのではないだろうか。

運営上の工夫

- 全体会から分科会への移動がスムーズに行くように、分科会ごとに異動する計画を立てて行った。また、エレベーターでの混雑を避けるために、人監査を設ける等の工夫も行った。そのため混乱もなく移動ができた。
- 大会運営要項に、大会の日程ごとの会場の位置図や配置図、移動計画などを掲載し、見える化したことにより、役員等が動きやすかった。
- 「おもてなしの心」が伝わる大会運営に心がけた。
- 弁当は、宮崎らしい食材を盛り込み、包装紙の紹介文やイラストも工夫した。
- 研究集録は、紙ベースのものを最小化し、デジタルデータで送付することにした。
- 大会宣言文については、6月下旬から各県起草委員とメールを中心に意見交換を行い、加筆修正を繰り返しながら作成した。大会前日の大会宣言文起草委員会で最終確認をし、全体会で報告することができた。

その他

- 「九州はひとつ」を合言葉に、前年度の鹿児島大会の運営資料や成果と課題を受けて準備を進めることができた。
- 参加者数を見直す時期ではあると思うが、予算面で見ると参加費の減少は、運営が厳しくなる可能性がある。